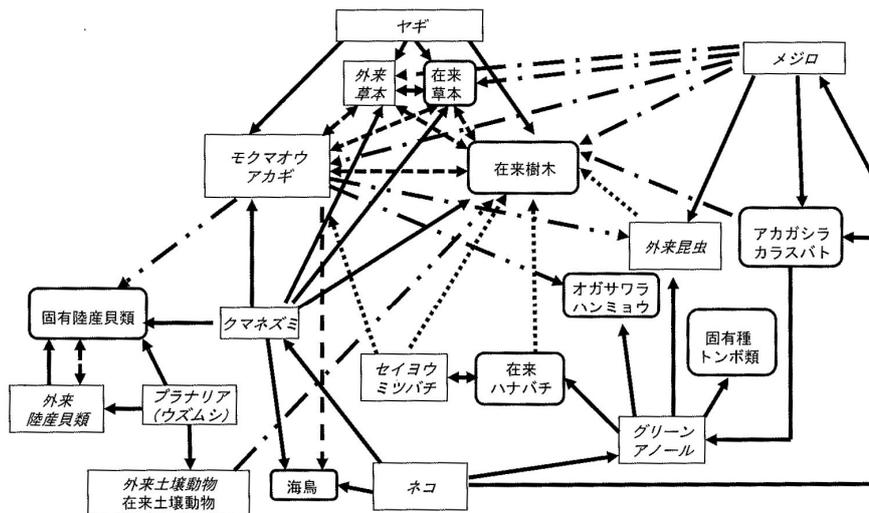
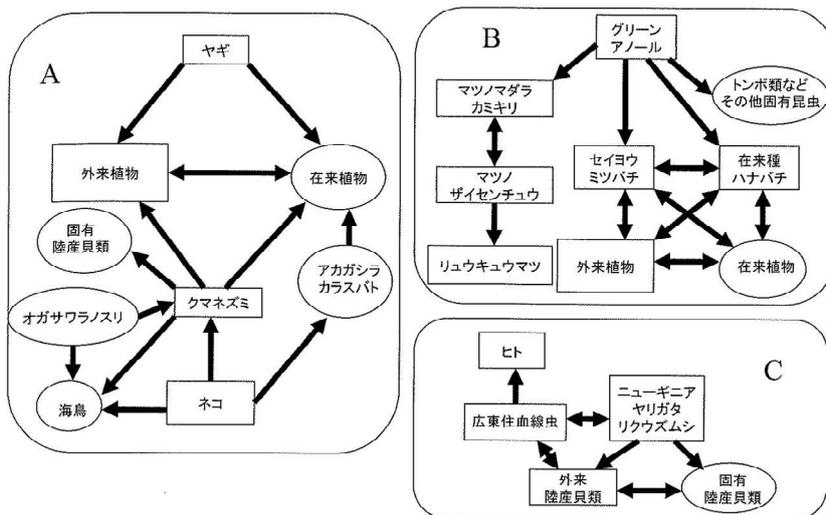


外来種防除を進める上での生態系管理について

外来種の防除を実施する際、生態系管理に配慮する必要がある。すなわち、当該地域における主要な動植物の関係性を考えた上で、対象とする外来種を排除したことの影響を考慮しつつ防除を進めるという考え方である。以下に小笠原諸島で実施されている外来種防除において作成された「主要生物間の関係概略図」と、実際に防除対象とした外来種を取り巻く「外来種の生物間相互作用」を例示した。



小笠原の主要生物の関係概略図。
 外来種は斜字で表記。実線は捕食、破線は競争、点線は花粉媒介、一点鎖線は種子分散、二点鎖線は生息地悪化。



小笠原で想定される外来種の生物間相互作用の例。
 Aはクマネズミを巡る関係、Bはグリーンアノール、Cはニューギニアヤリガタリクズムシ(詳細は本文参照)。図中、四角い枠は外来種、丸い枠は固有種。矢印は、片方向は捕食など一方的な関係を、両方向は共生、競争など相互的な関係を示す。